

学 校 評 価 結 果 (令和5年度)

徳島市南井上小学校

1 はじめに

本校の令和5年度の学校教育目標は、

「心豊かに 新しい時代をしなやかに生きる児童の育成 ―学び合い 認め合い 鍛え合い 支え合い―」としています。

めざす子ども像を(1)健康で明るくたくましい子ども(2)よく考え進んで活動する子ども(3)素直で思いやりのある子どもとして学校教育活動全体をとおして具体的な取組を進めています。この教育活動をより一層充実・発展させるために、学校の自己評価をさせていただきましたのでその結果を報告します。

児童・保護者・教職員・学校運営協議会委員にアンケート方式で評価をお願いしました。その評価結果を今後の学校運営全般に反映していきたいと考えています。

(1) 回答数 児童(400)・保護者(229)・教職員(24)・学校運営協議会委員(5)

(2) 分析方法

各質問項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を肯定的意見、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を否定的意見としてとらえました。

また、次の「令和5年度実践目標」から「確かな学力」「健やかな心身」「人権教育」「特別支援教育」「道徳教育」「安全教育」「環境教育・ボランティア教育」「生徒指導」「家庭・地域・関係機関との連携」の9つの視点でとらえました。なお、この9つの視点については、相互に関連していますので、分析方法の一つとしてお考えいただければと考えています。

2 令和5年度 実践目標について

(1) 健やかな心身の育成

運動の楽しさや喜びを体験させながら体力・運動能力の向上を図るとともに、家庭・地域と連携し、教育活動全体を通じた食育を推進する。

(2) 確かな学力の向上

個に応じたきめ細かな指導によって、基礎・基本の確実な定着や、自ら学び、自ら考える力の育成を図る。

(3) 人権教育の徹底

これまでの同和問題学習の成果や手法を生かし、教育活動全体を通じて人権教育を進める

(4) 特別支援教育の充実

一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限に伸ばすことをめざし、個に応じた教育を実践する。

(5) 道徳教育の充実

考え議論する道徳を推進し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(6) 命を守る安全教育

交通事故、災害、犯罪等様々な危機から自分の命は自分で命を守る意識を児童に養う。

(7) 生徒指導の徹底

生徒指導提要に基づき信頼感に満ちた生徒指導を推進し、心身ともに健康な児童の育成を図る。

(8) 環境教育・ボランティア教育の推進

SDGsの精神や、赤十字社の活動などに鑑み、環境に優しい取組やボランティア精神の浸潤をめざす。

(9) 家庭・地域・関係機関との連携

コミュニティスクールを推進し、学校が家庭や地域と協力しつつ特色ある教育を展開する。

3 評価結果について

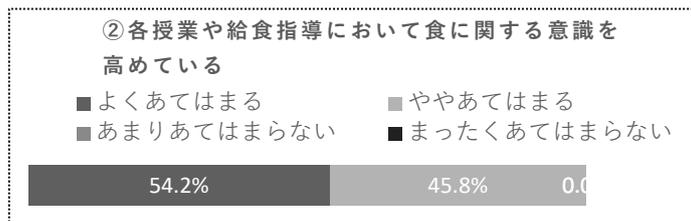
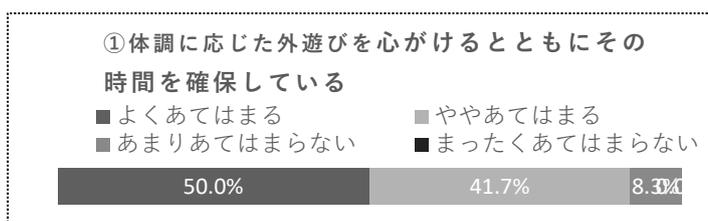
グラフは、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の順に%を表示しています。

(1) 健やかな心身の育成

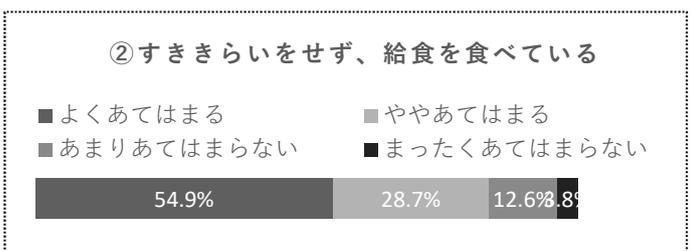
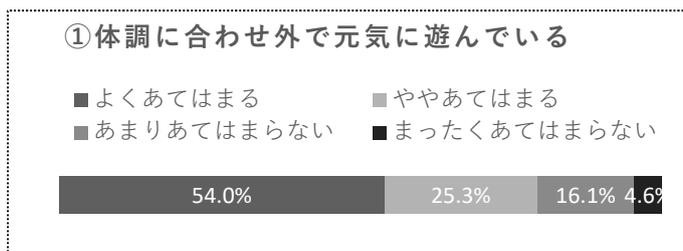
教員アンケートでは、①外遊びの時間を確保しよう（「よくあてはまる」「ややあてはまる」合わせて肯定的 91.7%）と考えているが、児童アンケートでは、①体調に合わせて元気に遊ぶに「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」児童が 20%存在している。

教員は②食に対する意識を高めることについても（「よくあてはまる」54.2%、「ややあてはまる」46.8%合わせて 100%）と力を入れており、栄養教諭をお招きして食育パワーアップ作戦を始め、成長段階に応じた指導を行ってはいけるものの、児童の②すききらいせず、給食を食べるについては 20%ほどの児童に課題がある。

教員

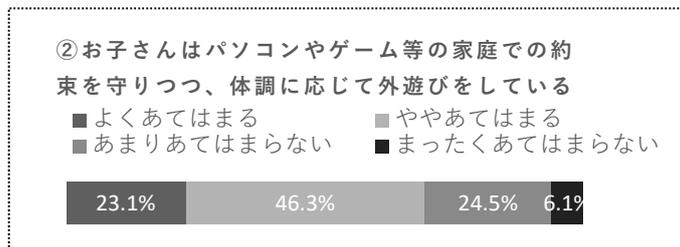
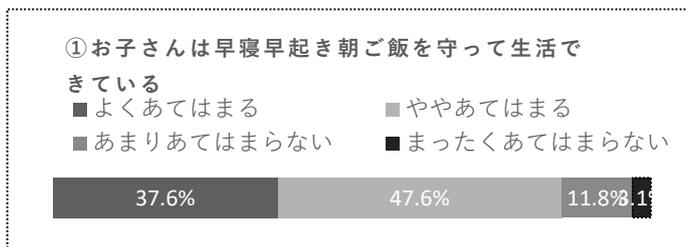


児童



保護者アンケートでは①早寝早起き朝ご飯は 85.2%のご家庭で肯定的に実践されており、②パソコン、ゲームの家庭での約束を守るとともに体調に応じて、外遊びをしている児童が、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」が合わせて肯定的に 69.4%いる。①②どちらも「まったくあてはまらない」が数%存在していることが心配である。②については「あてはまらない」が 30%以上（あまりあてはまらない 24.5%、まったくあてはまらない 6.1%）存在する。

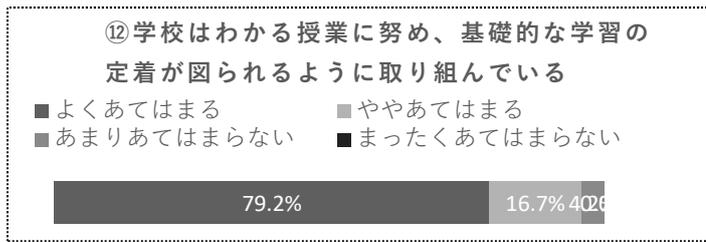
保護者



学校と家庭で協力して、外遊びや体力作り必要性をすべての子どもたちに伝えて行く必要がある。ゲームやSNSの利用についてもルールを守って生活していくネット社会の歩き方を低学年から学び実践していく必要性を感じる。3学期のPTA参観日の後に上田託也氏をお招きし、ネット社会の歩き方についてご講演を頂いたが、参加者が少なかったことが残念に思われた。

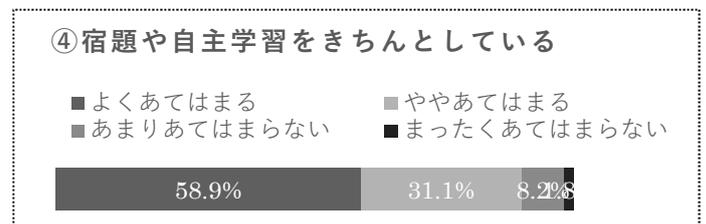
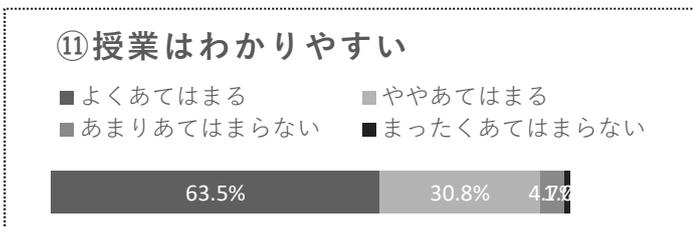
(2) 確かな学力の向上

教員

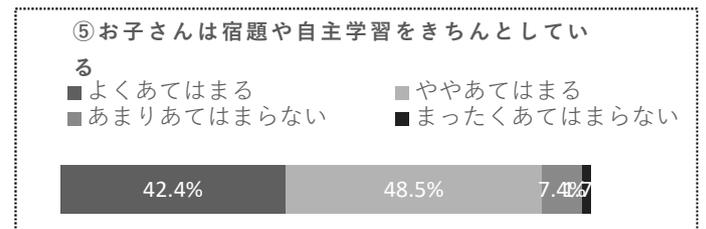
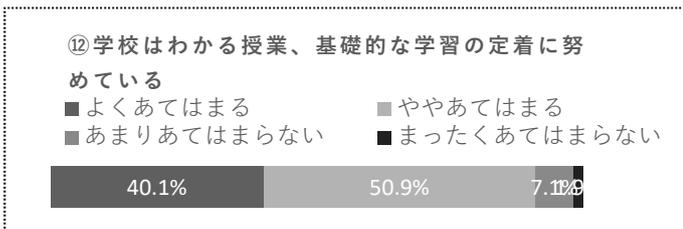


教職員は、基礎的な学習の定着をめざして⑫児童がわかる授業研究に取り組んでいる（96%）つもりである。学力の定着は家庭学習や自学自習による復習が大切であるため、丸付けや間違ったところを直す習慣もつけるように指導助言している。これについては、子どもたちの学習に対する姿勢や家庭学習への取組が大きく関係してくると思われるため⑤学習習慣の定着にも力を入れている。（「よくあてはまる」62.5%、「ややあてはまる」29.0%）

児童



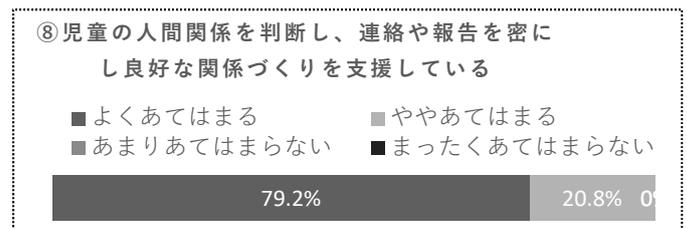
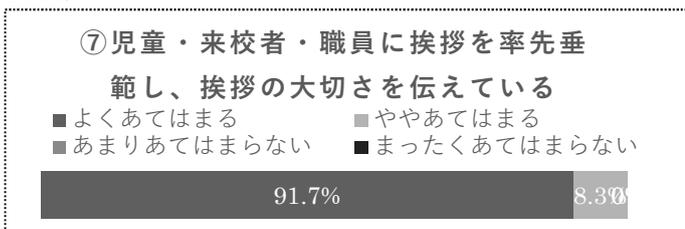
保護者

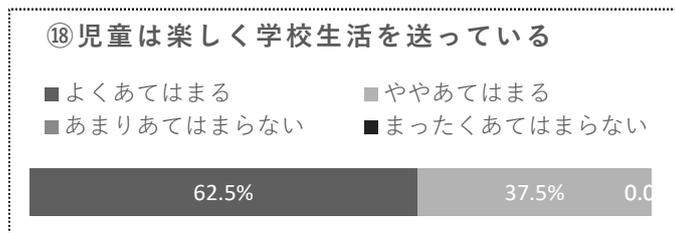
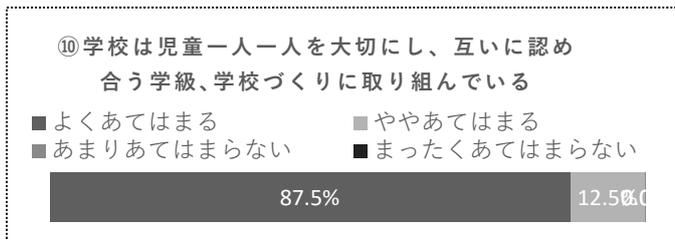


児童・保護者とも⑪⑫『わかりやすい授業』④⑤『自主学習の徹底』については、「あてはまる」、「よくあてはまる」を合わせるとともに90%越えをしているが、「よくあてはまる」については、児童と保護者の間で⑪⑫『わかりやすい授業』で20%以上の意識の差があり、④⑤『宿題（自学自習）をきちんとしている』については15%以上の差がある。保護者の方のご心配の様子がうかがわれる。昨年度に比べて、保護者の方の⑫学校はわかる授業、基礎的な学習の定着に努めているが6%もアップしており、授業の様子を参観日等でみていただいたことが功を奏していると感じた。また、少数ではあるが、授業がわからない、宿題を全くできていないと感じている児童・保護者がいることも理解し、家庭とも連携し個に応じた学力の向上がなされるような対応が必要である。

(3) 人権教育の徹底 (4) 特別支援教育の充実

教員



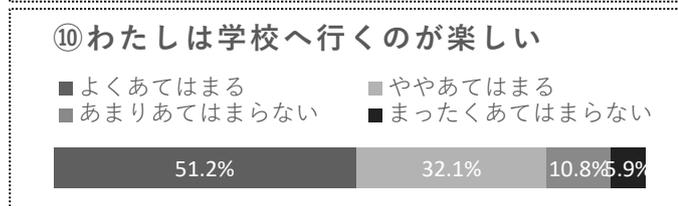
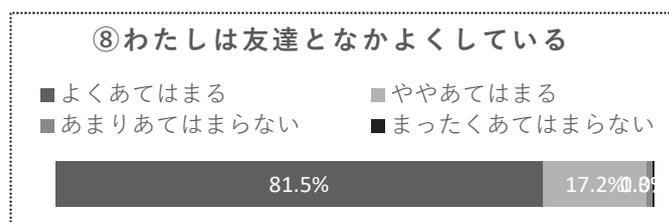
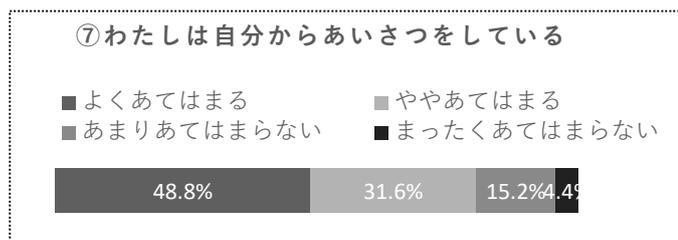


学校は人権教育を教育の根幹と考え、特別支援教育も含め、認め合う学級づくり、良好な関係づくりに努力している。挨拶の大切さについては、委員会活動においても力を入れてきたが、地域の方々からも、あと一步のお声もみられる。

人権学習の授業ではどの学年も成長段階に応じた教材を使って、いじめやけんかのない良好な人間関係づくりに努めている。教員の願いもふくめて⑬児童は楽しく学校生活を送っているについては、教員アンケートでは「あてはまらない」児童は0%という回答となっている。

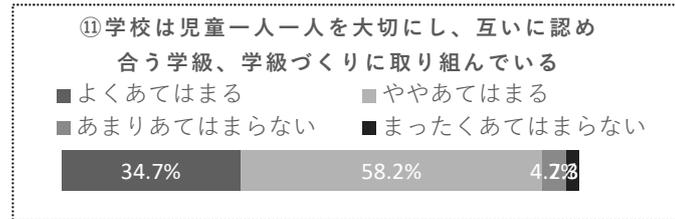
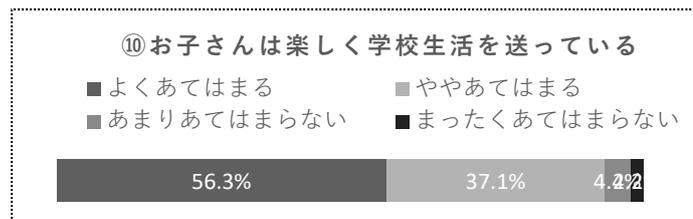
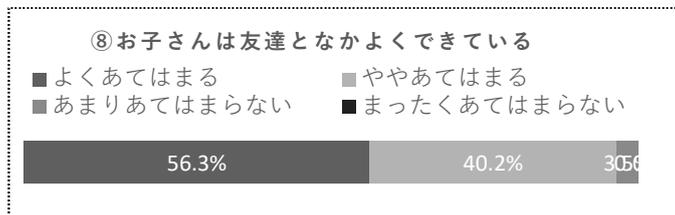
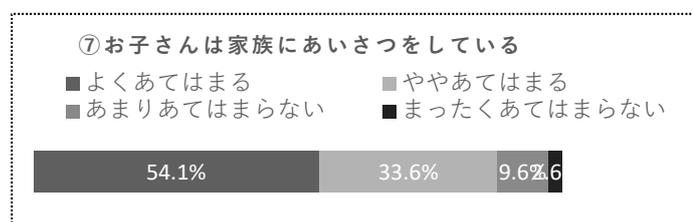
児童アンケートをみると、⑩学校へ行くのが楽しいについては、「あてはまらない」と答えている児童が15%存在している。⑦自分からのあいさつ「よくあてはまる」が48.8%に留まっており「まったくあてはまらない」児童も4%ほど存在する。防犯面（不審者等）で見知らぬ人とは話さないという文化もあるが、地域の方、保護者の方との気持ちのよいあいさつを自分から行う文化も大切にしたい。⑧友達となかよくしているについては「よくあてはまる」が81.3%「ややあてはまる」が17.2%と友人関係はまずまず良好である。

児童



人権教育や特別支援教育が充実することにより、子どもたちは学校における居場所をつくることができると思われる。挨拶をすることにより、人とながかり、友達とも仲良くして楽しい学校生活を送ってほしいと願っている。

保護者



保護者アンケートからは、⑦家族へのあいさつについては「よくあてはまる」も54.1%と半数は存在す

るが、家族同士でもあいさつをする習慣が少なくなりつつあるように感じられる。朝のあいさつや「おはようございます」「行ってきます」「ただいま」「いただきます」など子どもさんからのあいさつする機会を持ち続けていただきたい。

友人関係は児童アンケートとよく似た傾向で、ほぼ良好な児童がほとんどであるが、⑩学校の楽しさについては「まったくあてはまらない」児童が存在することや、⑪互いに認め合う学級、学校づくりについては、93%以上の保護者の方が「あてはまる」とお答えいただいているものの、7%の保護者の方から「あてはまらない」というご意見をいただいていることも重く受け止め、誰一人取り残さない学級づくり、学校づくりに取り組んでゆきたいと思う。

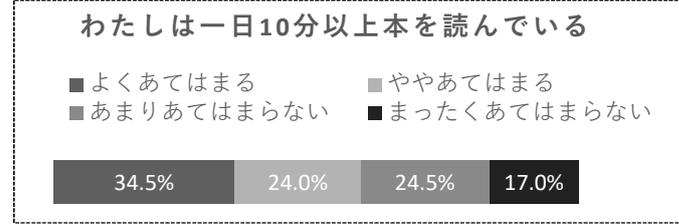
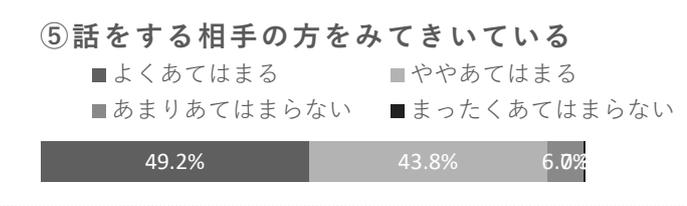
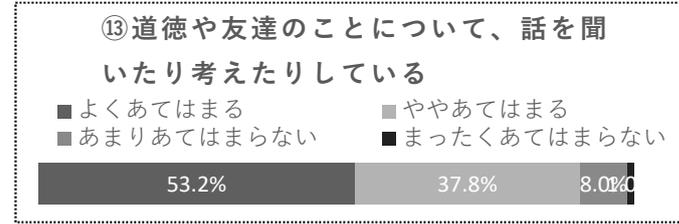
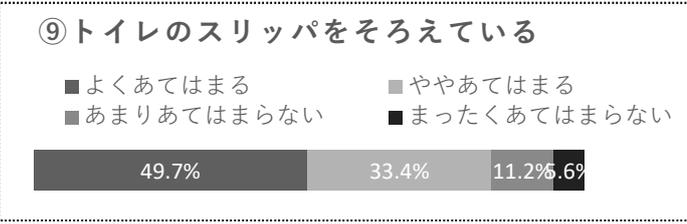
(5) 道徳教育の充実 (8) 環境教育・ボランティア教育の推進

教員

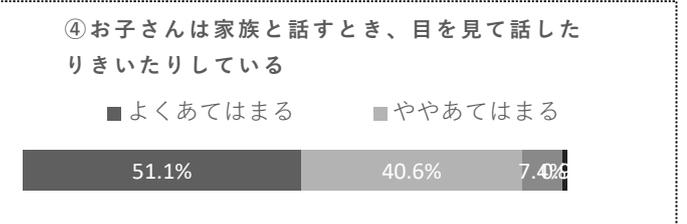
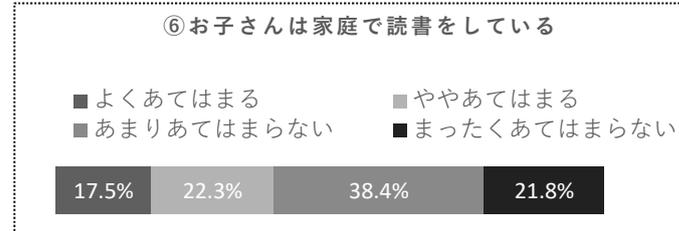
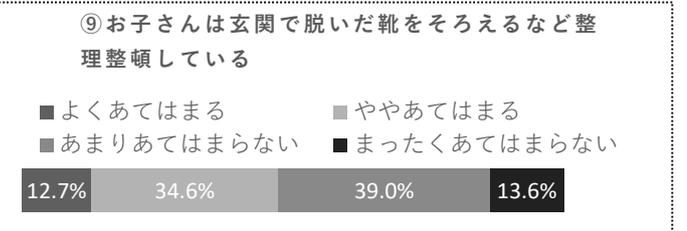


道徳教育は、人間としてのあり方を自覚し、人生を世路よく生きるために、その道徳性を育成しようとするものである。学校では、「道徳の時間」を要として学ぶとともに、教育活動全体を通じて行うものである。

児童



保護者



道徳性については、⑨公共のスリッパの整理整頓などは「主として集団や社会との関わりに関する事」につながり、④⑤話の聞き方については「主として他の人との関わりに関する事」をみる指標として考えることができる。環境教育やボ

ランティア教育は「主として集団や社会との関わりに関すること」の道德教育ともつながりが深い。四国電力や水道局等にも環境教育の出前授業をおねがいし、視野を広めた。

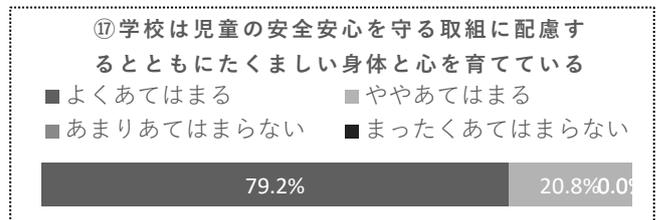
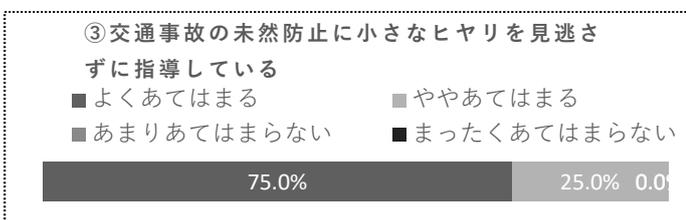
⑨児童のトイレのスリッパをそろえることについて「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた児童が合わせて17.8%も存在する。トイレのスリッパが乱れていることがあるが、8割あまりの児童は整理整頓ができているため、誰かがするだろうという考えを持っていることについて、公共物を大切に、次の人のことを考えてといった公共心を持つ指導の必要性を感じる。

⑬道德や友達のことについて、話を聞いたり考えたりしている児童が90%以上存在していることは道德の授業にほとんどの児童が真剣に取り組んでいることの表れである。④⑤授業中も話を聞く態度はよくできており、話をしている方に向けてよく聞いている(90%以上)。

⑥読書については道德性の育成のみならず、あらゆる学習の基礎基本となる。読書を「まったくしていない」児童が20.2%存在することも事実で、保護者アンケート⑥でも21.2%が読書はしていないと回答している。読書により学習成績を上げるだけでなく、視野を広げ、豊かな道德性や世界観を養うことができる。学校・家庭で連携して読書の習慣を養う必要がある。

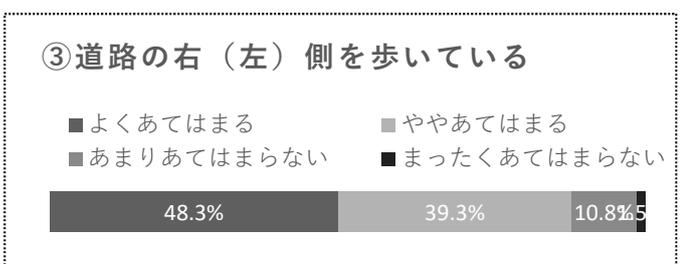
(6) 命を守る教育

教員

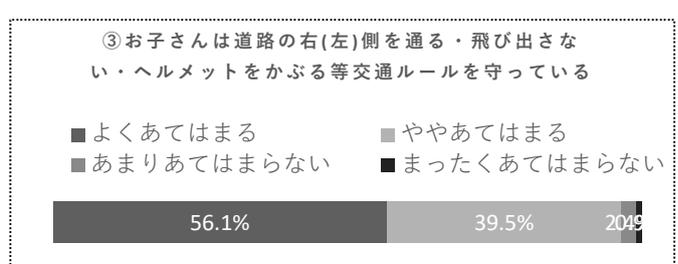


子どもたちの命を、③交通事故や災害から守るために、ヒヤリとした瞬間を見逃さない(100%)ようにし、たくましい心と体を育成できるような学校における配慮を続けているが、407名の子どもたちの命を守り、安全安心を確保するためには地域家庭との連携も欠かせない。交通立哨や避難訓練等においては地域・保護者の皆様・関係諸機関との連携を密にしていきたい。

児童



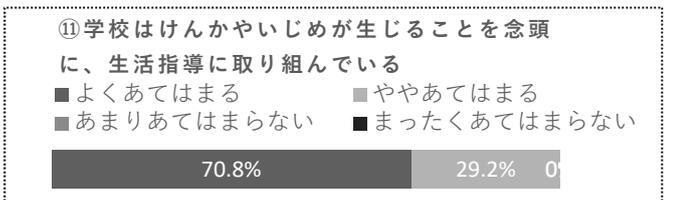
保護者



児童も81.6%は③右側(左側)によって、歩行することができている。朝の集団登校はほぼ全員道の端によって一列で登校できているが、課題となるのは下校時かと考えられる。「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」があわせて12.3%存在する。保護者の認識とも少し差があるように思われる。ご家庭での話し合いや、下校時のパトロールなど関係機関とも連携していきたい。

(7) 生徒指導の徹底

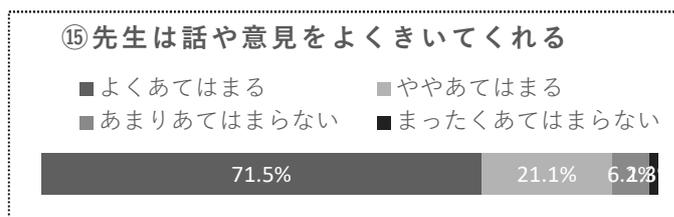
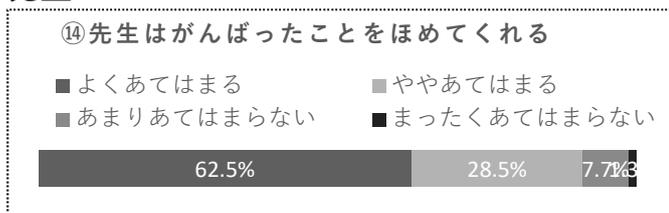
教員



教員は常に、⑪けんかやいじめが発生したときに危機管理マニュアルにそって早期発見・早期解決を目指して対応(肯定的100%)している。とくに、初め対応の大切さを痛感している。また、生徒指導提要の改訂に伴い、発達支持的生徒指導や課題予防的生

徒指導など未然防止や不登校対応へ力を入れ始めている。生徒指導は一人一人の良さを認め、その可能性を広げていくことを目的としていることを忘れないようにしたい。特別支援教育ともタイアップするがポジティブ行動児童支援を学校全体で心がけている。

児童

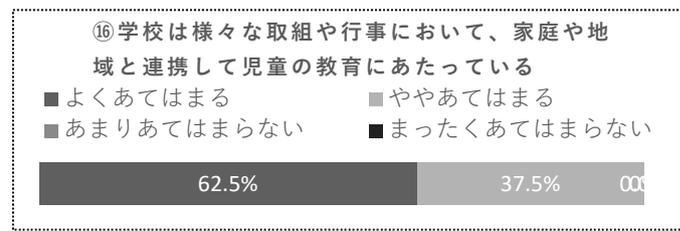
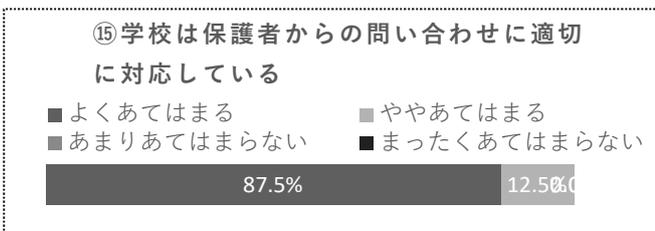
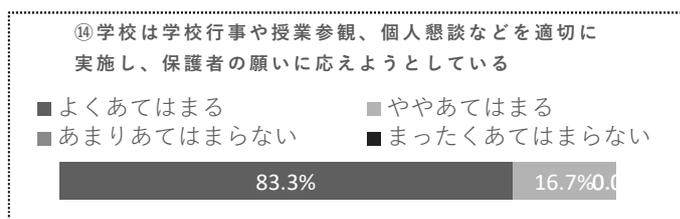
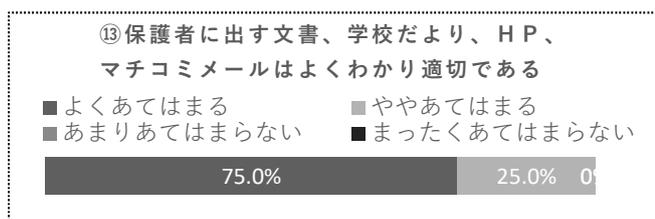


児童も⑭先生はがんばったことをほめてくれる「よくあてはまる」「ややあてはまる」合わせて91%とポジティブな行動支援の成果がみられる。また、⑮先生は話や意見をよくきいてくれる「よくあてはまる」「ややあてはまる」合わせて92.6%と子どもとのコミュニケーションを大切に学級経営を進めていることがわかりいただけると思う。しかしながら、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」も10%近く存在することも念頭に、すべての児童への声かけや一人一人の良さを認めていく生徒指導体制を築いていきたいと考える。

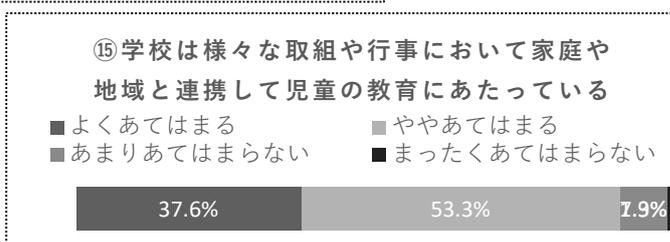
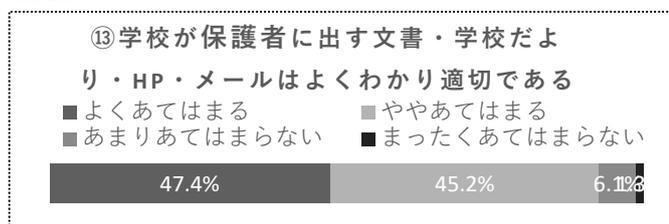
(9) 家庭・地域・関係機関との連携

学校は、地域や保護者の願いに応えられるように努力しているつもりであるが、十分とは決していえず、教職員と保護者の間にも違いがあることは否めない。教職員の働き方改革も考慮しながら、何が子どもたちにとって最善なのか、与えられたリソースの中で南井上小にとっての最善を考えていきたい。

教員



保護者



学校としては、⑬HP、学校だより、学年だより、マチコミについては、HPは、新着情報をあげるのに精一杯で十分に整理ができないままだったが、新着情報は一週間に3～4回は更新してきたと思う。さらなる充実の必要性を感じる。学校だよりは年間で20回ほど、学年だよりは各学年10回ほど発行してきた。保護者も90%以上が肯定的に受け止めてくださっている。改善点については、情報担当や管理職を中心に、開かれた学校を目指して取り組んでいきたい。

ポストコロナの⑭学校行事についても日々努力してきた成果があって保護者の方も、肯定的に捉えてくださっている方もいるが、⑯地域との連携については「よくあてはまる」が37.6%に留まっている。地域と共に行ってきた大運動会が学校主導のスポーツ大会に置き換わったことが影響していると考えられる。別の形での地域連携を模索していくと共に、今年度同様、行事の精選をしていきたい。しかしながら、「ややあてはまる」53.3%を含むと行事等の連携も90%が肯定的な見解を持っている。地域連携と行事については、学校運営委員会の皆様にも相談しながら、互いに話し合い歩み寄って進めていきたい。

⑮⑭保護者からの問い合わせについても、教員は丁寧に答えているように思うが、電話での連絡であったり、又聞きであったりするために十分なお返事ができていない場合があるかもしれない。引き続き丁寧な対応を心がけていきたい。

学校運営委委員（5名）

	評価項目	まる	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学校は、児童の学力を伸ばす教育を行っている。	5	0	0	0	0
2	学校は、差別やいじめのない学校づくりに取り組んでいる。	5	0	0	0	0
3	学校は、児童の体力をつける取り組みを行っている。	4	1	0	0	0
4	学校は、保護者や地域の願いに応えた教育活動を行っている	4	1	0	0	0
5	学校は、児童の安全・安心を守る取り組みに配慮している。	5	0	0	0	0
6	個人懇談や、学年だより・校長室だより・ホームページなどによって、学校での様子や学習の内容などを知ることができる	4	1	0	0	0
7	本校の教職員は、一人ひとりのニーズに応じた支援を行っている	4	1	0	0	0
8	本校の児童は、きまりをよく守っている	4	1	0	0	0
9	本校の児童は、気持ちのよいあいさつをしている	3	2	0	0	0
10	本校の児童は、やさしく思いやりのある態度が見られる。	4	1	0	0	0

スポーツ大会や授業参観日に、お越し頂いていた学校運営委員5名の方たちにアンケートを実施し、表のような評価結果と次のようなご意見を頂きました。

○児童の自主性を重んじ、学年を隔てず、仲良く協力している様子が見られ大変よい教育がなされているように思います。
 ○さらに地域も連携した教育ができるとよいと思います。
 ○スポーツ大会に参加させて頂き、校長先生を始め、教職員の皆様が子どもたちと共に、一生懸命に楽しんでお世話してくださっているのをみて南井上小学校の子どもたちはこれからの学生生活も素直でみんなと協力しながら頑張れる子どもたちになれると先生方皆様に感謝しています。

学校運営委員の皆様には、地域と学校の架け橋になって頂き、スポーツ大会の開催や通学路の安全を考慮したゾーン30プラスの話し合いなどにご尽力頂きました。評価項目においても非常に「よくあてはまる」「ややあてはまる」に回答して頂き、あたたかく学校を見守ってくださっており、感謝しております。気持ちのよい挨拶の励行や、地域との連携にさらに力を入れていきたいと思っております。

次年度への課題と今後の改善方策 教職員からの提案

健やかな心身の育成・命を守る安全教育

- ポジティブな行動支援を引き続き心がけ、ほめて、子どもに自らのよさを自覚させることで「学校へ行くのが楽しい」と思える児童を育てていく。
- 学年や行事とのかねあいもあるが、酷暑や厳冬時を除き、一日一回は外に行くように積極的に呼びかける。(体調不良児童には要配慮)
- くすのき班活動(外遊びの活動)があると、子どもたちは喜んで体を動かすことに効果的であるため引き続き続ける。
- 保健・体育委員会が外遊びのイベントをする。
- 旧幼稚園が改築され、校舎になることから、マニュアルを再編し、緊急事態に備え、引き渡しの共通理解を図り、マニュアルの見直しをする。
- 不審者対応を含め各種避難訓練や生命の安全教育を関係諸機関と連携して深化させる。

確かな学力の向上

- わかる授業、学力の定着、学校が楽しい、友達となかよくしているは比例していることを教職員間で共通理解して進める。
- 「書く」ことが苦手な児童の中にはスムーズに文字を書けない、言葉をあまり知らない児童もみられるので、視写教材を使いなどして書き写す練習をする。
- タブレットの「メタ文字のデータをスタディオログとして毎年持ち上がることで、児童自身の学習の振り返りやのびを確認する。ポートフォリオ的に活用する。
- タブレットの持ち帰りを推進し、ミライシードなどの宿題に取り組みさせる。
- ICTを活用する場面を増やし、タブレット等での自己表現の場を意図的に設け、様々な課題に取り組めるようにする。
- ICT支援員による研修を増やし、情報モラルの学習も並行して行う。
- 総合学習では、3年生からはローマ字学習と関連付けてタブレットを用いた調べ学習を行い、情報を集め、タイピングの練習も積み重ねていく。

人権教育・生徒指導の徹底 道徳教育の充実 環境教育ボランティア教育の推進 特別支援教育の充実

- 心を豊かに育てるために人権コンサートなど、子どもの心に響く行事を引き続き実施する。
- 朝の活動時、読書する時間を設定する。(毎週火曜日を読書デーとする。)
- 生徒指導については、過去の事例(自他校問わず)を参考に、初期対応や事後指導し、未然防止に向けた取組を行ったりする。
- 各委員会で、しっかり取り組む。あいさつ(ボランティア)、トイレスリッパ・廊下の通り方(保健・体育)、清掃(環境)、読書(図書)。
- スリッパの整頓はカラーリボンで可視化する。
- 異学年交流の「〇〇教室」(例 鉄棒教室、なわとび教室)を実施し、苦手な運動でもできたことを多くの人から認められ、次のステップへ意欲を持たせられる活動を取り入れる。
- 特別支援教育に関する研修を実施し困り感をもつ児童への理解を深める。
- 交流を始める前に支援学級と通常学級の担任とで児童の情報交換をする。学習の目的や、個に応じた目標を共通理解しておくによりよい交流になると考えられる。
- 次年度の交流のあり方について話し合う時間を設定し、子どもに応じた交流、支援ができるようにする。

家庭・地域・関係機関との連携

- すすんで自分から挨拶するための啓発として、児童だけでなく家庭への呼びかけ(HP、学校、学年だよりなど定期的に行う)も定期的に行う。そのためにも学校と家庭との信頼関係を築いていく必要がある。
- 生徒指導、教育相談等についても関係機関との連携や相談や協力体制を整える際には、それぞれのステージに応じた働きかけをし、教職員のwellbeingにも配慮する。